

2学期のご挨拶とお知らせ

【前期後半のご挨拶】

— カードに関するお話し —

高杉学園
理事長 高杉洋史



5月に保育学会がありました。また8月に教師研修九州大会がありました。保育学会では高杉学園の音楽教育について、九州大会では、吉塚ゆりの樹幼稚園の職員はアンケートに協力してもらい、玄海ゆりの樹幼稚園の早田先生がドリカムタイムについて発表しました。溝口先生は研究収録に向けて、発表内容をまとめている最中です。

さて、大きな研究大会の基調講演では日本を代表する幼児教育の先生や文部科学省の方がその時々の教育の方向性を話されます。きっと来年10月からの幼児教育無償化の話があると期待して出かけました。ところが、肩透かしでした。その後、幼稚園の全国組織の副会長をされている先生はじめ数人とこの話題をするのですが、新聞発表以上の情報は得られません。大学の先生、教育関係の方、行政の方どなたの情報も似たり寄ったりです。とにかく消費税が8%から10%にならないと財源がないので今のところ童話の「酸っぱいブドウ」の話のキツネさん的心境です。あと半年か一年待つしかありません。

保育学会は仙台がありました。10年ぶりに飛行機に乗りました。九州大会は長崎だったので特急電車で出かけました。両方ともインターネットで予約してカードで決済して、予約番号をプリントアウトした紙を見ながら空港や博多駅の機械で乗車券を発行しました。人と言葉を交わすことなく座席まで行ける世の中にびっくりしました。当初は自分でプリントアウトした紙だけで大丈夫だろうかと思いましたが、座席番号まで予約できているので、信じるしかありません。お金も千円札や百円玉の顔を拝むことなく事が運びます。実は5月上旬まで、東郷駅から吉塚駅まで行くのに券売機に百円や十円を入れて乗車券を買っていたのです。多くの方がスマートフォンをかざして改札を通過する姿を見ながら、自分のはガラケイだからダメなんだろうとあきらめていたわけです。ところがなんとSUGOCAなんていうカードがケースに挟んであるだけのこと、また券売機でそのカードが買えるとのこと、何回も触っている券売機にそんな機能があるなんて、いかにいつもぼんやりしているのか自分自身に啞然としました。それ以来時代に合わせるために銀行に行ってデビットカードを作ってもらい、残高はスマートフォンですぐにわかるようになりました。ただいまワイワイクラブもQRコードを写したら支払いができるヨカペイとかラインペイとか研究と実験をしています。保護者の皆様の利便性を高めるよう努力します。もちろん教育内容の向上にも努めます。

今年度の後半が始まります。子どもたちが心身ともにぐんと成長する季節です。子どもたちの一番身近にいる私たちが温かく見守りましょう。



「2年前に60歳、還暦を超え、一周まわって、

今感じること Part2」

園長 高杉美稚子

猛暑を通り過ぎて、酷暑というほどに暑い夏が過ぎていきました。

私達教職員も暑さに負けず、園児達の教育充実の為に、多くの研修に参加し、勉強してまいりました。音楽と体育の融合である保育には欠かせない音感教育のマーチング研修や乳幼児の発達に関する研修、幼稚園連盟の研修、福岡県教師研修会、玄海ゆりの樹幼稚園は、さらに今年も京都から和太鼓専門の「戸田朝夫先生」をお招きし、丸一日かけて和太鼓やガードの新曲にも取り組みました。

特に今年は全国私立幼稚園連合会、九州大会で、福岡県を代表して園児たちの「ドリカムタイムについて」職員の教育がどのように向上したかを、理事長、園長、教務主任と発表してまいりました。

ゆりの樹幼稚園で実践している「自分の夢をかなえる為の原動力となる教育」という思いから「ドリーム カム トゥルー タイム」略して「ドリカムタイム」と名付け、自分が何をやりたいかを考えて、自ら保育を選択し、その結果を表現する行動の記録や保育のあり方は、子ども達の興味のあり方、教育の方向性を明確にできると考えています。

各自に適した指導ができるこの保育は、遊びながら子ども達の自ら考え、行動し、決断できる自主性を養い、本当の生きる力を身につけることができる活動となります。

今回その実践を通して、職員も、自分で考えて実践する保育を通して自己肯定感を高め、自信を持つことができたという結果を得られ、とても有意義な発表でした。



九州の多くの幼稚園の先生方、大学の先生からも大変興味を持たれ、多くの質問もいただき、充実した発表と質疑応答の時間を持つことができました。

臨達心理士会の研修、ゲシュタルト学会、ロールレタリング学会の研修にも参加、一つ一つが学びと教育者にとっての心に残る良き原風景となりました。

また、年少中組の床が、天然木であることから研磨ができます。ピカピカに真新しい床になって気持ち良い新学期を迎えてます。駐車場も出入りがスムーズになるように工事をしましたので、交通マナーを守って安全運転のご協力をよろしくお願ひいたします。



★心の原風景を作るとは★

小中学生も含めて、子ども達が家に戻り、お母様はいつももましてや忙しい日々であったことと推察いたします。と同時に、かけがえのない子ども達との原風景の日々であったと思います。私が子育てしているときも親子で、ゆっくり過ごすことができたのも、小学生まででした。

中学校にはいって、部活動を始めたとたん、家族旅行もいけず、勉学も忙しくなり、本当に小学校までが大切な親子の時間だったなあと振り返っています。

本園の教育の根幹をなす三つの柱の一つに、『思い出と感動を作ること』をあげています。

「子ども達の心に残る原風景をいくつ作ってあげられるか」は、このことと密接に結びついています。



感動があるところには共感があり、共感があるところには眞の自立があります。感動があるところには思い出が形成され、そこには生命の尊重があります。心の陽だまりとなる原風景をいくつも持っている人は、人の命も自分の命も大切に出来るからです。

以上のことことが根底にある人は、常に自己成長があり、人生の幸せについて見極めることができ、情報を取捨選択し問題解決していく能力や、危機管理能力も身についていきます。この事の本園の教育との関連と大切さについては本園の保護者の方ならば、すでに

ご承知の事でしょう。

では、心に残る原風景はどうしたら残せるのでしょうか？
ちょっと振り返って見て下さい。皆さんが覚えている記憶の中で一番古いものは、いったいいつ頃のものでしょうか。自分の記憶に残っている一番幼い頃というのは、何歳の頃のことか思い出して下さい。

さて、そのことのヒントになる言葉が、京都大学 靈長類研究所所長 比較行動学の権威正高信夫先生の著書 心と体の不思議「ヒトの本能ってなに？」の中にあります。

『ある作家は小説の中で、産湯につかった時の、タライの木目を覚えていると書いています。その真意のほどはともかく、ふつうでは、生まれて初めて歩いた日の事を記憶にとどめているということはありえないことです。百人ぐらいの人に、一番古い思い出を尋ねても、答えは、大体三歳ごろ、せいぜい迷子になったとか、転んでケガをしたとかいった、断片的なエピソードに落ち着いてしまって、それより過去にさかのぼる事はできません。

どうしてでしょうか。それは私たちが自分で経験したことを記憶として定着させるためには、ことばが不可欠であるからです。体験した内容を、「お話」にすることが求められるのです。

お話の筋に従って、体験を系統立てつなぎあわせて初めて、情報は蓄えられるのです。そのお話を他人に話して聞かせることばの能力が獲得されるのが、まさに三歳ごろというわけです。

三歳の子どもに「きのうのお昼に、何をましたか」とたずねても、まず覚えていません。でも、昼食をとってしばらくして「今日はカレーライスを食べたよ」と語るように仕向けると、

その翌日も、メニューは子どもの頭の中に残っています。話すことで記憶は形成されていきます。ただ、大人は三歳児と違って、口に出さなくても心の中でつぶやいて、どんどん体験をお話に変えることができますが、ことばを習いたての子どもはそれができません。だから、実際に、音として口から何度も繰り返し発した情報しか残っていかないのです。それゆえ、覚えていることは、少ないということになります』とあります。

最近のデータではおなかの記憶がある子どもも増えているということですので、この正高信夫先生の本は少し古くなりますが、この本に書かれている事が意味することは何でしょうか。

『言葉をもたないと全部忘れててしまう』では、言葉の数の広さと深さが少ない幼児期の原風景はどうしたら残してあげられるのでしょうか。

まさしく、ゆりの樹幼稚園で大切にしている感動を持つことの大切さがここにぴったり当てはまるのです。親が感動するからこそ、その感動が言葉となって子どもに返される事の意味の大切さがここにあります。人は、感動しなければ、共感しなければ、言葉を発することはありません。だから、いくつになっても、何人目の子どもでも、人は、特に子を持つ親は感動して頂きたいのです。（でも、言葉をいくらかけても、悪口や批判ばかりだったりすれば、子どもにとって良い原風景をつくる事にはなりません。だから、いつも、良いところを見出して頂きたいのです。）そして、感動して、子どもに良い言葉をかけてほしいのです。そしてお話を続けて頂きたいのです。そうする事によって、子どもは言葉を獲得していきます。言葉をもつと記憶に残ります。記憶に残ると、良い原風景が形作られていくのです。



親が感動すれば、子どもとの共感があります。親の感動があるから、自分の子どもと共感できるし、共感があるから、他の親とも、他の子ども達とも共感でき、そこで自分以外の他人や、我が子以外の子どもも認められるのです。そこに、親自身と子どもの自立（個別性のある共感）があります。真の自立があるところには、人のあつれきもありません。



それぞれが自立してないから、トラブルが起るのかもしれません。このことは、今までお話してきた事ではありますが、親として、子として、人として、それぞれの自立があり、トラブルもなければ、他の家族との良い原風景の輪も広がっていきます。原風景の輪が大きくなれば、子どもが包み込まれていく陽だまりが大きくなることは当然の事です。

では、夏休みが終わって、私達大人がすべき事はなんなのでしょうか。それは、子ども達に、感動したことを伝えることです。子ども達がわかる言葉で、具体的に繰り返しあ互いにお話し、感動を再び共にすることが今、まさにしていただきたい事です。決してどこかに連れていくことが、原風景になることではないのです。

「夏休み、一緒にそうじしたね」そんな些細な思い出でいいのです。そのようにして、子ども達に心の陽だまりの原風景を少しでも残してあげることが出来たら、子どもが（いいえ大人になっても）、いつの日か、疲れ果て羽が折れることがあっても、そこで羽を休め、再び、飛び立つ勇気を持ってくれるに違いありません。心が傷ついた人を休ませてあげる心の

ゆとりがある子に育つでしょう。自分の命と同様、人の命も大切にする子どもにも育ってくれるでしょう。そのことが、青少年の多感な時期の問題解決に繋がっていきます。今からの実践が大切です。

だから、少なくとも、私達子どもの周りにいる大人（親と教育者）は、いつも新鮮な気持ちで、感動する人でいましょう。我が家子のちょっと心配などころにさえ、その子らしさを、いいところを見出せる人でいましょう。そのこころのゆとりを持ちましょう。優しさを持ちましょう。「発表会の〇〇のところがこんな風に素敵だったね。」「夏休みこんなことがあったね、」そしてこれから始まる運動会も同じです。「こんなところを一生懸命だったね」と感じたことを言葉にして伝えてあげてくださいね。それを子ども達に言って頂く事をお願いするのは、園のため、職員の為では決してないです。

子ども達のより良い育ちの為にお願いすることなのです。

子ども達の為に、何か園であるたびに、家庭で何かあるたびに、何もなくても何もない平和な生活であることに、感謝して、感動して生きていきましょう。

子ども達の為にどうぞ、宜しくお願い致します。

さて、還暦を超えて、一周まわって、今感じることの続きです。



★受け入れるとは★

受け入れるということは、なかなか難しいことですね。自分の許容範囲の狭さを、何があるごとに、感じるのは、何歳になっても、何かあった時や、知らずに相手を、傷つけてしまった時に感じます。

私は、気が強い人に見えるかもしれません。でも本当は、気が小さいですね。気が小さいから、強く見せていないと生きてこれなかったのかもしれません。

今は、「本当は、気が小さいんですよ」と言えるようになった分、楽に生きていくことができるようになりましたが・・・

失敗や自分の駄目な所を人に伝えることができたら他の人の失敗を防ぎ、その結果、皆が幸せになり、感謝の言葉が返ってくる→そうすると、自分が幸せになり、モチベーションが上がるのではないかと思います。

失敗や自分の駄目な所に気付く人は素晴らしいとも思います。自分の駄目なところや失敗に気づけば、失敗という川に足を突っ込んだことがすぐわかる。だからすぐ出ることもできます。



そしてその自分を受け入れるとこの自分自身が溺れる川が「これが自分だ」という大樹の幹になる、これがゆりの樹幼稚園の考える、「私は私になる、私は私でいい」ということではないでしょうか。

また私は、気が小さいから断ることが難しかったですね。断れない私。NOが言えず、ひたすら、頑張り続けることは、苦しいですね。

でも、精一杯受け止めるしかない時もある、そして苦しいことも、つらいことも、いったん受け止める、こういうこともあることも仕方がないなあと受け止める、そして、全回、サポート「忍耐力」は(我慢することではない、今できることをできるだけでいいので、スマールステップでもいいから、前を向いて一歩づつ、精一杯実践して、一つ何かが終わった時に、頑張ったなあと思える時が来るそれが、耐える力)について書きましたが、そうやって、少しづつ、これ以上受け止められない程受け止める努力をした時、これだけ努力したのだからと「もうこれ以上はできません」と断る力が付くのではないかと感じています。そのような体験を実際にもしてきました。物事は全て両面を持っているのだなあと感じています。



そして、物事を片方からだけ見ると、苦しいですが、物事は両面から見た時、楽になるような気がします。本当に無償の愛で「相手も自分も受け入れるということ」は、本当にはできないかもしませんが、少しでも行動変化することで、楽に楽に生きていけることができたらなあと感じます。

もちろん、少し自信をつけると、反対に、更に自分のコンプレックスも見えてくる様になりますが、自分のコンプレックスに気づけた人は、より一層人を許せる、受け入れるようになるのです。許せない間は相手に執着します。「こんな時もある」と相手や起きたことを許し、受け入れると、同時に自分からしがらみを手放し、「無執着」にもなれるのです。



今学期もゆりの樹幼稚園の10E・めざす人間像を大切に→自分の気持ちに気付くと家族の気持ちに気付き、それに気付けると友だちの気持ちに気付き、愛と思い遣りが育ち、自分も困ったときには「わからない、教えて、助けて」が言える、喧嘩した時ごめんなさいが言える、そして受け入れてもらって心からの「ありがとう」が言える、心が美しいから「ありがとう」ということばが美しく輝く→皆が幸せになって心が一つになる・・・そんな心の育ちを大切にしたゆりの樹幼稚園を目指し頑張ります。ご協力宜しくお願ひいたします。

